

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2012.3.30
第10号



北畠氏館詰城跡から多気北畠氏遺跡第35次調査地を望む

最近の調査から

1 山の脇遺跡第2次調査

山の脇遺跡は津市一身田豊野に所在し、東に伊勢湾を望む標高5～14mの丘陵上に立地しています。平成17年度の福祉施設建設事業に伴う第1次調査において、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物を多量に含む、谷状地形が確認されています。

今回の第2次調査は福祉施設の増築に伴い、平成23年8月22日から10月19日まで、第1次調査西隣の丘陵(460㎡)で実施しました。調査の結果、遺構としては前回と同様に遺物を多量に含む谷状地形をはじめ、中世の土坑等が見つかりました。このうち谷状地形は調査区の南半部に位置し、北西から南東に向けて弧状に続いています。その規模は長さ約17m、幅約12.5m、深さ約3.5mです。

遺物は、そのほとんどが谷状地形から出土したもので、弥生土器をはじめ、土師器や須恵器、山茶碗、陶器、土錘、砥石等があり、出土量は整理箱で91箱分あります。時期的には、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器が大半を占めており、中には完全な形に復元できる壺・高杯等をはじめ、ミニチュア土器、さらには壺の胴部に小さな穴があげられたものもあります。

山の脇遺跡は谷状地形の埋土に多数の土器

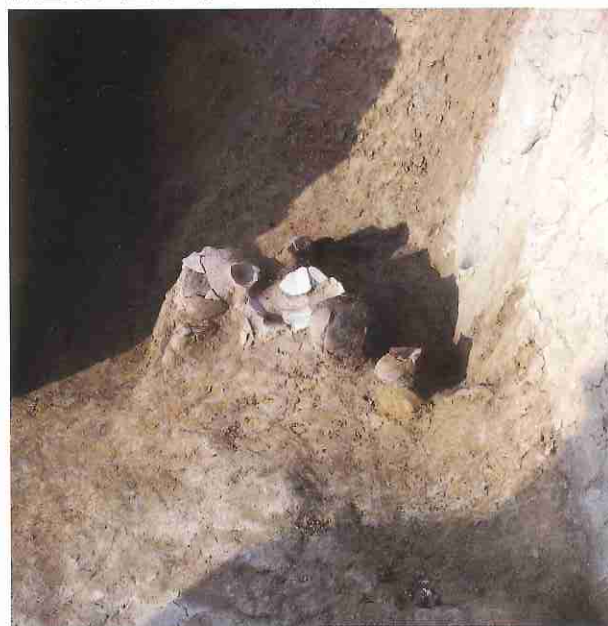


調査区全景（南から）

が含まれる遺跡であることが、今回を含めた2回の発掘調査において確認されました。これら土器を残した人々の集落がどこに存在していたのかは、遺跡の立地する丘陵が近世以降に開墾を受けるなど、本来の姿から大きく改変されてしまったために、残念ながら不明となっています。（田中秀和）



調査地位置図（国土地理院『津東部』1:25,000）



谷状地形遺物出土状況（西から）

2 多気北畠氏遺跡第35次調査 (上多気六田地区第8次調査)

津市では上多気六田地区における遺跡の広がりや当時の土地利用のあり方を確認するため、昨年度の第34次調査に引き続き発掘調査を実施しました。

今回の調査では、平成23年10月から12月までの日程で、畑地に1箇所、水田に5箇所の合計6箇所に調査区(合計305㎡)を設定しました。その結果、平成19年度の第30次調査、平成21年度の第32次調査で確認された東西方向の石列と平行する石列が検出され、一定の地割に基づいた計画的な土地利用の在り方が確認できました。その他、上多気六田地区の北端や南端に近い調査区でも掘立柱建物や井戸などの生活の痕跡が見つかっており、広範囲に遺跡が広がっていることがわかりました。一方で、調査区によっては遺構が全く検出されず、遺物の出土もごくわずかにとどまる場所もありました。

遺物については、中世期の土師器や青磁、白磁などのほか、小型の硯も出土しています。前述の第30次調査や平成20年度の第31次調査で確認された金属の溶解容器の破片も確認され、金属加工に関連するものと考えられます。また、調査区によっては多数の縄文土器などの古い時期の遺物も確認されています。



位置図(国土地理院『伊勢奥津』1:50,000)

今回の調査によって、上多気六田地区においては、六田館跡を中心とした一帯に中世期の屋敷地が広がっていた一方で、少し離れるにつれて生活痕跡が乏しくなり、そのあり方は場所によって様ではないことがわかってきました。これまでの調査成果とあわせ、北畠氏の城下としての上多気六田地区の様子が少しずつ明らかになってきたといえるでしょう。(熊崎 司)



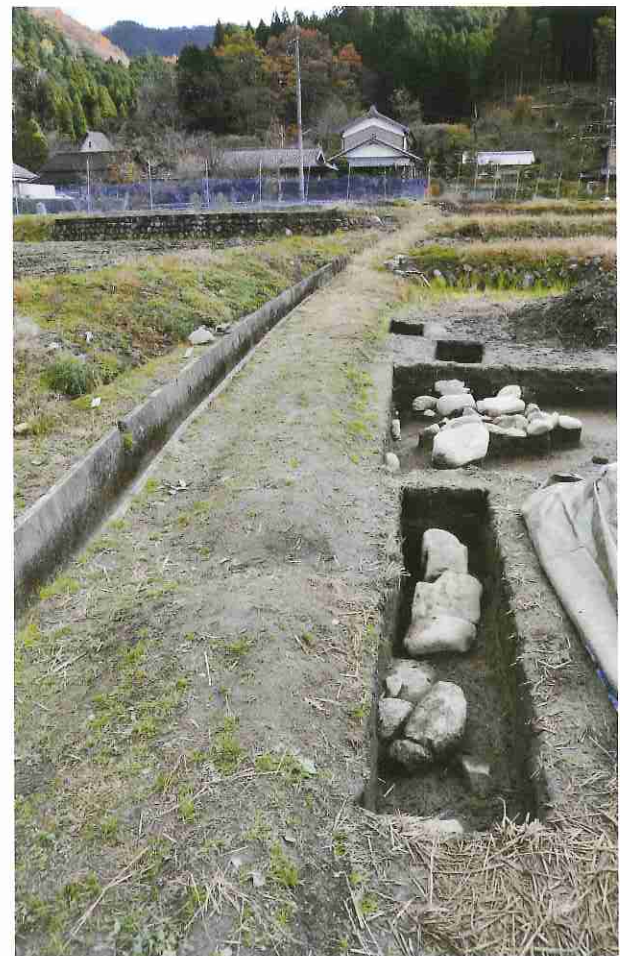
表



裏



小型の硯



石列(西から)

津市指定史跡 宮山城跡

宮山城跡は、津市戸木町字敏太の標高約46mの低丘陵の頂部に位置し、現在は敏太神社の境内になっています。平地からの比高差は約20mで、北側に取り巻く谷が自然の堀となっています。

主郭は南北約20m×東西約10mの規模で、周囲に高さ2～4mの土塁が取り巻き、外側には空堀が残っています。また、虎口前面にも土塁と堀が設けられています。

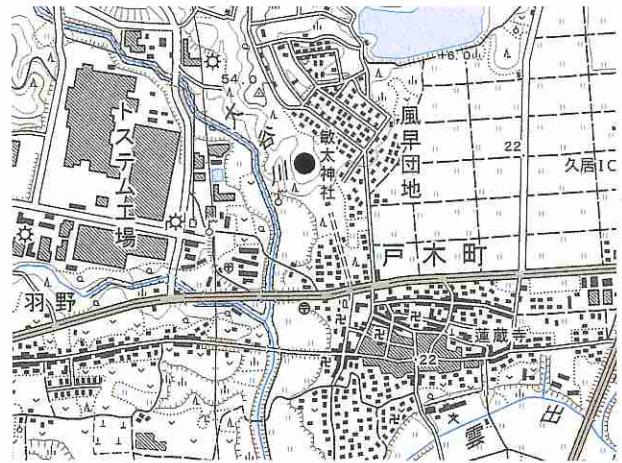
この城は、木造具政により天文年間(1532～1554)に、南方約600mに位置する戸木城(市指定史跡)の支城として築かれたとされています。戸木城は本来、木造城(木造町・市指定史跡)の支城として築かれたものですが、木造正宗が居城し、ここを戸木御所と称して城下町が整備されたと言われています。

天正12年(1584)の小牧・長久手の戦いの際には、木造氏は織田信雄軍の一員として、羽柴秀吉軍の蒲生氏郷と戦うことになります。宮山城は氏郷軍の木造氏攻略の防衛拠点とされましたが落城し、改修された後に、逆に戸木城攻めの拠点にされたといわれています。

最近の研究では、宮山城の北東約500mの位置に、戸木城攻めの拠点の1つである城山城(戸木町)が確認されています。主郭は、内部の広さが25m×12mの単郭方形で、二重囲みの堀を設けていて、また堀に折を持たせるなど、宮山城とよく似た縄張となっています。

一方、上野遺跡(青葉台)においては、16世紀後半の城郭の一部と考えられる巨大な堀や土塁などが検出されており、ここも戸木城攻めの拠点の可能性が指摘されています。

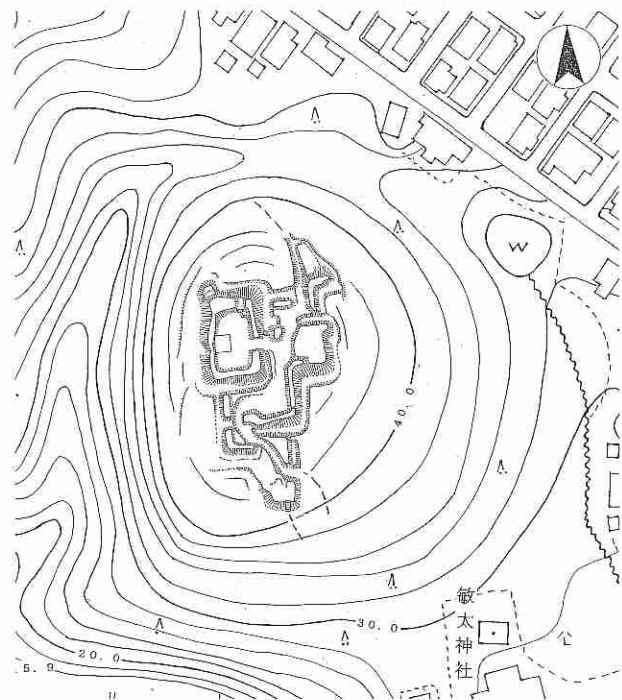
以上のように、宮山城周辺には戸木城との関連が考えられる中世城館が点在しており、この地域の重要性が窺われます。(村木一弥)



遺跡位置図(国土地理院『津西部』1:25,000)



主郭(南東から)



宮山城跡実測図

三重県指定有形文化財 漆経塚出土品

漆経塚が見つかった津市美杉町下多気漆地区は、雲出川本流と支流の八手俣川に挟まれた高所山（標高 772 m）の南山麓に広がる盆地に位置します。経塚は、集落域から 800m ほど南西に離れた山王権現社跡近くの御壺山の頂部に造られ、現在もゴルフ場の一部として残っています。

地元には、この場所に金の鶏が埋まっているという伝説があり、昭和 9 年に近隣住民の手により掘り出されました。

埋納状況の詳細は不明ですが、当時の発掘関係者への聞き取り調査によれば、陶製外筒の中に銅製経筒を納めた経塚が頂部にあり、これを中心に、直径約 5.4 m の環状に他の経塚が造られていたようです。内部構造が比較的分かっているものは、銅製経筒が埋められた経塚で、地表面から深さ 1 m ほどに底石を置き、壁面には自然石を積み上げ、銅製経筒を納める陶製外筒を置く小石室がありました。

確認された遺物は、銅製経筒 1 点（高さ 25.3 cm）、陶製経筒 7 点（高さ 21.8 ～ 28.4 cm）、瓦質経筒 4 点（高さ 28.0 ～ 30.0 cm）、土師質経筒 4 点（28.0 ～ 30.0 cm）、銅鏡 12 点（方鏡 1、円鏡 10、湖州鏡 1）、青白磁合子 3 点（口径 3.1 ～ 4.2 cm）、青白磁輪花皿 1 点、銅銭 2 点、刀子、経軸、青磁片、土師器片等のほか、伝世品の銅鏡 1 届があります。これらは、おおよそ平安時代末期から鎌倉時代初頭のものと考えられています。

漆経塚の周辺に「大堂」という寺院に関係すると思われる字名がありますが、集落にも大きな寺院や神社はありません。経塚を作った願主や願文などがわかる遺物も無く、誰が経塚を作ったのかは、不明です。

出土品は、昭和 27 年に三重県有形文化財に指定され、現在、津市美杉ふるさと資料館で一部が展示されています。（石淵誠人）



位置図（国土地理院『伊勢奥津』1:25,000）



経筒（左が銅製、右が陶製）



銅鏡

埋文センターこの一年

平成 23 年度日誌抄

- 4月11日 《貸出》大城遺跡出土刻書土器
(7月15日まで、大阪府立近つ飛鳥博物館)
- 4月14日 《貸出》高茶屋出土銅鐸1号鐸複製品
(6月24日まで、滋賀県立安土城考古博物館)
- 4月19日 《見学》一身田小学校 144名
- 4月22日 《見学》神戸小学校 52名
- 4月25日 《普及》出張講座 雲林院小学校
- 4月26日 《普及》出張講座 櫛形小学校
- 5月9・10日 《普及》出張講座 高茶屋小学校
- 5月17日 《普及》草生公民館メダカ教室講師
- 5月27日 《閲覧》高井古墳他出土玉類(個人)
- 5月27日 《見学》一志健康歩く会 35名
- 6月10日 《貸出》高茶屋出土銅鐸1号鐸、野田出土銅鐸複製写真(6月30日まで、浜松市博物館)
- 6月27日 《貸出》高茶屋出土銅鐸1号鐸・野田出土銅鐸複製品(9月30日まで、浜松市博物館)
- 7月12日 《普及》総合的な学習時間「郷土を知る」西橋内中学校 3名
- 7月15日 《貸出》大城遺跡出土刻書土器写真
(9月1日まで、財団法人漢字能力検定協会)
- 7月28日 《閲覧》上野遺跡出土家形埴輪(個人)
- 7月28日 《貸出》多気北畠氏遺跡第34次調査遺構写真
(株)ジャパン通信情報センター)
- 8月15・16日 《普及》インターシップ研修
- 8月22日 《調査》山の脇遺跡第2次発掘調査(10月19日まで)
- 9月15日 《閲覧》西毛谷南古墳出土甕棺
(鈴鹿市考古博物館)
- 9月26日 《貸出》北畠氏館跡出土金銅装金具
(11月25日まで、斎宮歴史博物館)
- 9月30日 《貸出》大城遺跡出土刻書土器写真
(11月下旬まで、株式会社童夢)
- 10月1日 《貸出》多気北畠氏遺跡第30・31次発掘調査図版(個人)
- 10月6日 《普及》南が丘小学校選択教科講師
(11月10日まで)
- 10月9日 《調査》多気北畠氏遺跡第35次調査(12月28日まで)
- 11月27日 《貸出》大城遺跡出土刻書土器写真
(12月7日まで、津安芸農協協同組合)
- 11月30日 《貸出》大城遺跡出土刻書土器写真
(12月28日まで、株式会社風日舎)
- 12月9日 《閲覧》安養院跡出土土器ほか(三重県史編さん室) 10名
- 12月9日 《閲覧》片野遺跡出土土器(個人)
- 12月10日 《普及》多気北畠氏遺跡第35次調査現地説明会 50名
- 12月15日 《調査》下之川富田遺跡第3次発掘調査(3月1日まで)
- 12月16日 《視察》東郷町文化財保護審議会委員 8名
- 12月19日 《貸出》西毛谷南古墳出土甕棺
(平成24年3月16日まで、鈴鹿市考古博物館)
- 1月31日 《見学》久居城下案内の会 20名
(久居分室)
- 2月20日 《貸出》鬼が塩屋遺跡出土遺物
(3月31日まで 三重大学考古学研究室)
- 2月24日 《見学》久居城下案内の会 20名
(久居分室)
- 3月6日 《調査》津城跡範囲確認調査
(3月22日まで)

編集後記

自然災害の多い一年でしたね。今年、三重大学敷地内から、過去に起きた大規模な地震に伴う液状化現象の痕跡が見つかりました。時には、昔の大災害を教えてくれる調査現場の情報を、今後どのように活かしていくのかも担当者に課せられた責務ではないかと痛感しました。
(編集子)

発行日：平成24年3月30日
編集発行：津市埋蔵文化財センター
〒514-0058
三重県津市安東町1225
TEL 059-229-0210
FAX 059-229-4601
印刷：(有)ミフジ印刷